

授業科目名	インターンシップ	担当教員名	三上 聡子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	大学が独自に設定する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位 (40時間)	授業方法/担当形態	実習 / 単独
開講学年/学期	1/2年 期間 (期間) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 幼稚園副総園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、幼児教育の現場での実例を多く取り上げて授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	インターンシップは、より実践的な応用力並びに創造力を備えた職業人の養成を目標とする本校独自の科目です。 日常の保育活動や年間を通じての様々な園行事などにインターンシップ（職業体験）として参加し、興味・関心・意欲の向上、問題発見や問題解決能力の育成、保育実践のための思考や理解の基盤づくり、知識の総合化と実践化、望ましい人間関係を築く態度の形成、豊かな人間性や価値観の向上の形成に取組み、教育実習・保育実習などで培われる子ども理解の感覚を子どもたちとの自然な関りの中でより研ぎ澄まされたものにしていきます。		
到達目標	<p>インターンシップの目標は、幅広い知識、技能を取得し、直接体験によって視野を拡大し、創造力を養うことである。</p> <p>(1)保育における創造性を養う</p> <p>①園生活の実際において、保育の手法や子どもたちとの関わり方等に触れる中で保育のイメージを豊かにする。</p> <p>②子どもたちの本質的な姿から柔軟な発想や考え方を学ぶ。</p> <p>③模倣からオリジナリティーを加えていく感覚を養う。</p> <p>④自分の創造力や創造性を保育の中で生かすことができる力を培う。</p> <p>(2)保育の専門職に求められる資質・能力を育成するために必要な教育を理解し、実践力・応用力の向上を図る。</p> <p>①幼児が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう環境構成や関りに十分配慮する。</p> <p>②話し方や目の配り方など保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。</p> <p>③子どもたちが興味・関心を高めたり見通しを持って主体的に活動する気持ちを持ったりするために情報機器や視聴覚教材を活用して、幼児の体験との関連を考慮しながら、効果的に教材等を作成・掲示することができるようになる。</p>		
テキスト			
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社) 『月刊 保育とカリキュラム』(ひかりのくに) 『よくわかる保育所実習』(創成社) 新聞記事 等		
成績評価の方法	実習への出席状況、指定レポート提出による総合評価		
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等			
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	事前指導(オリエンテーション) インターンシップにおける学習内容を充実させるための知識・技術を基にして「自己課題」を設定する。	(1)-①,(2)-②	
第2回	キャリアデザインセミナー(全体) 幼稚園、保育所、社会福祉施設、スポーツクラブ等の仕事の内容を聞き、自らの適性や将来のキャリア設計について考える。		
第3回	インターンシップ 6月 園見学実習【全員参加】… 園児との遊びを通して幼児の集団生活の実情を体験学習する。また、子どもの姿を観察し、安全への配慮や配慮を必要とする子どもの姿を理解する。 8月 夏季行事… 9月 運動会行事…		
第4回	中間指導 インターンシップにおける留意点の再確認や保育並びに子どもたちとの関りにおける具体的な内容の確認。		
第5回	キャリアデザインセミナー(グループ) 幼稚園、保育所、社会福祉施設、スポーツクラブ等における仕事の正確な情報を把握し、実際の仕事の内容を正しく理解する。		
第6回	インターンシップ 8月 園ホームクラス… 野外活動(キャンプ)… 8月 夏季行事… 社会福祉機関… 9月 運動会行事… 12月 野外活動(スキー) 1月 野外活動(スケート) (通年) スポーツクラブ(体育・水泳)…		
第7回	事後指導 インターンシップでの経験を活かすために、園内行事における振り返りや実習報告などの達成内容を発表し、学生間での内容を共有すると共に自己の資質の向上を目指す。 インターンシップ全体の振り返り		
第8回	卒業前研修 幼稚園、保育所、社会福祉施設、スポーツクラブ等の職員として現場に臨むにあたり、現場で活躍している先輩の豊富な体験談を聞き、就労に際しての不安をやわらげ、職場でのなくてはならない存在となるための心構えを築く。		